

職場体験の事前事後プログラムを強化 —企業応援団が活躍する神奈川県横須賀—

小中高生のキャリア教育に欠かせないのが職場体験。一時的な“イベント”に終わらせないために、職場体験の前に“気付きのプログラム”、体験後に“振り返りのディスカッション”を行い、学習を深め、“仕事”の感覚を身につける。

■はじめに

「未来のよこすかを担う“人財”に育ててほしい」を目的に、横須賀商工会議所、横須賀市、市教育委員会の3者が連携し、2008年度から中学生を対象にした「よこすかキャリア教育推進事業」を推進している。“よこすかで働く大人はみんな子ども達の先生”というスローガンの下、学校現場だけで担ってきた子どもたちの教育に、地域産業界が主体的に深く関わることによって、中学生の職業観、勤労観および地域への愛着心を醸成するプログラムである。

本プログラムの事務局は商工会議所内に置いている。地域企業の従業員を講師として派遣している他、キャリア教育コーディネーターを配し産業界と教育界の橋渡し役を担っている*。

■企業には従業員教育の場

商工会議所の会員事業所の中から、本事業を支援していただける企業応援団を組織している。現在約420社の登録があり、企業応援団の従業員講師を、“MTT＝マイ・タウン・ティーチャー”と愛着を持って呼んでいる。

参画する応援団事業所の方々は、本プログラムの効用を「従業員が働く意義を再認識」「地元企業を知ってもらう機会」「CSR（企業の社会的責任）としての事業価値を見いだすこと」と捉えている。多くの企業が従業員教育の場として活用しており、こうしたことが本プログラムへの大きな理解につながっている。

職場体験を経験した子どもたちと職業観・勤労観を話し合うプログラムを通じて、参加したMTT自身が自らの仕事を振り返るいい機会になっており、「自分がこの仕事に就いていて良かったと改めて思った」といった感想が寄せられている。本プログラムによる地域企業と生徒のつながりが産業・教育界のお互いの財産・メリットになっている。

■一過性のイベントにしない

よこすかキャリア教育推進事業は、連携する中学校の「総合的な学習の時間」を体系化し、年間を通して支援している。職場体験を中心とするキャリア教育



佐藤 廣
さとう ひろし

横須賀商工会議所
情報企画課 主任

*

よこすかキャリア教育推進事務局は、文部科学省と経済産業省による2011年度「キャリア教育推進連携表彰」において、最優秀賞を受賞。

は、一過性のイベントになりがちである。そこで「この学習をもっと効果的なものにするには？」という要望から、MTTを活用した職場体験の事前事後の教育プログラムを構築した。

主なプログラムは、次の3つである。

1. ポスターセッション～私の仕事紹介します～

MTTによる職業紹介プログラムで、職場体験前に実施している。教室等を利用し、仕事道具や説明のための展示ブースを用意。子どもたちは、興味のある仕事ブースに行き、説明を聞いたり、ちょっとした仕事を体験する“気付き”のプログラムである。

2. ビジネスマナー研修

職場体験前に、企業研修等を実施するMTTから、挨拶の大切さや電話対応、名刺交換といった本格的なビジネスマナーを学ぶ。

3. グループディスカッション～出会いが心を揺さぶる～

職場体験後に実施するプログラム。5～6人の生徒に対して一人のMTTを配し、職場体験で生じた疑問や悩みをMTTやクラスメイトと共有する。MTTが仕事のやりがいや、学校で勉強したことが仕事でどのように役立っているのかなどを話し、意見交換する。生徒たちは、地域で働く大人が真剣に仕事に取り組んでいることを知り、地域を見直すことにもつながっている。

■展望

今後は、さらにキャリア教育応援団を拡大し、多くのMTTや事業所に関わっていただき、多くの子どもたちにたくさんの“気付き”を与えてもらうことが必要であると感じている。

- いい人材は いい地域から育つ
- いい地域は いい学校をつくる
- いい学校は いい人材を育てる
- いい人材は いい事業所を支える
- いい事業所は いい地域をつくる

この事業に関わった生徒が、将来、横須賀を盛り立ててくれる大人になり、今度はMTTとして中学生に“夢”を語ってもらう日が来ることを期待して、事業を継続していきたいと考えている。



ポスターセッション～お花屋さんのお仕事紹介～



ビジネスマナー研修



グループディスカッション～出会いが心を揺さぶる～